



## 「Catch Ball キャッチボール」

～地域に開かれた農場を目指して～

住 所：〒014-0054 大仙市大曲金谷町26-9

電話番号：0187-63-2257・Fax 0187-62-3434(大嶋農場:Fax 兼用 0187-68-2381)

U R L：<http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp>

\* 農場便りに関するお問い合わせ農場経営部までご連絡下さい。

### 金谷農場

#### ◆農場長より(高橋寿徳)

暑い夏も終わり、秋のおいが漂う時期になってきました。収穫の秋ももう間近です。生徒みんなの頑張りが立派な農作物となって現れます。楽しみにしましょう。

収穫の季節がやってくると、各地で様々なイベントが開催されます。積極的に参加しましょう。8月20日大仙市四ツ屋にある東北農業試験場の参観デーに参加し「水田に生える雑草」「稲作栽培の高温対策」の研究内容を勉強してきました。このようなことを大農生にも研究させたいという気持ちと自分自身ももっと勉強なくては…という気持ちにさせられました。また、8月28日には畜産部の生徒3名と北海道旭山動物園の前園長小菅正夫先生の講演会に参加し動物の生態や特徴について勉強し、参加した生徒も感銘を受けた様子でした。

勉強する場所や機会は学校だけではありません。職員室前の白板に各イベント情報を記載しておきますので積極的に参加しましょう。

#### ◆施設野菜部門より(平塚・高橋恵)

今年の夏も暑い暑い！お盆を過ぎてちょっと涼しくなりましたがまだまだハウスの中は真夏(梅雨?)です。施設野菜ではトマトの収穫が終了しました。大震災で生育が心配されましたが、生徒の皆さんが愛情込めて手入れをしていただいたおかげで何とか予定通り終了することができました。お買い上げいただいた地域の皆さん・先生・生徒の皆さんに感謝です。

現在、ハウスにはメロンが実を連ねています。雨不足で果実の肥大と糖度が心配ですができるだけ美味しいメロンが収穫できるよう奮闘中です。夏休みの40℃を超える中に部活動を削ってお手伝いしてくれた野球部の皆さん。ハンドボール部の皆さん。ありがとう

#### ◆露地野菜部門より(佐藤文・佐々木鶴)

- ・秋物のキャベツ、ブロッコリー、ハクサイの定植真っ最中です。
- ・エダマメが夏の猛暑のせいでなかなか身がふくらまず困っています。しかしながら晩生のマメが順調みたいなので少しホッとしています。
- ・ネギの1回目の追肥も終わり順調に育っています。

#### ◆果樹部門より(藤井・工藤)

モモの収穫・販売がここに来て最盛期です。例年であればお盆前後がピークになりますが、今年は一週間遅れとなっております。今後も成熟度を観察しながら、リンゴやナシ、ブドウを販売していきますのでよろしく願います。

#### ◆花卉部門より(小松・山代)

北東北インターハイの会場となった、六郷の自転車競技場、仙北市田沢湖の自転車ロードレース会場、なぎなたの大仙市ふれあい体育館、の3カ所の花の装飾が無事終わりました。

3月から種まきをして苗を育ててくれた2年生、3年生の草花選択生の皆さん、6月に全員で200個のプランターに植え付けてくれた1年生の皆さん、そのほか、毎日の水かけ、トラックへの積み込み、会場での設置、片付けを手伝ってくれたたくさんの先生方、生徒の皆さんありがとうございました。大農のきれいな花々で、選手の皆さんを喜ばせる事ができたのではないかと思います。

今、役目を終えて戻ってきたプランターの一部を校庭に並べています。みなさんも登下校の際に見て下さいね。

## ◆食品加工部門より(伊藤寿・瀬田川)

### 大農味噌が順調に発酵しています！！

発酵食品の起源は、人間が文字を発明し記録を残したことから、かなり正確に知ることができます。しかし、実際には、それよりずっと古く、おそらく、人間が農耕や牧畜を始めた頃、いくつかの発酵食品が誕生したものと推察されています。

ところで、醸造という言葉の、醸の字の、酉（とり）は酒つぼの象形文字に由来して、「成熟する」という意味をもち、囊（じょう）は「ものが増えること」を意味しています。そこで、微生物の働きにより、つくり出されたものを「醸造物」（発酵食品）と表現したと考えられています。大農「味噌」は微生物の働きにより作り出される発酵食品です。美郷町産大豆「リュウホウ」には表皮にしわができやすい品種特性があります。生徒が一粒一粒手作業で厳選しています。春の味噌の仕込み作業から7月の切り返しを経て10月の製品完成まで静かに熟成しています。大農味噌は2.5kgを800円で校内販売される予定です。

## ◆生物学部門より(坂本寿・大沼・齊藤・佐藤潤)

夏の強い陽射しとは対照的に、遮光カーテンにより薄暗く涼しい温室内は、実習中の生徒の避暑地としての役割を果たしてくれました。その温室内では、胡蝶蘭、シンビジウム等がこれからの開花に向けて生長中です。ぜひ生物学温室に足を運んでみてください。

### 大嶋農場

## ◆大家畜部門より(芳賀、佐々木一)

3月生まれの「大農松」は5ヶ月になりました。離乳したばかりの頃は、大鳴きの1週間でしたが、今では人を怖がらず、みんなのアイドルになっています。そんな松が先日11日に去勢されました。肉用として生まれた雄牛は、よりおいしい肉になるために必ず行わなければならない儀式のようなものです。ということで、「松」は「松子」になってしまいました。

## ◆中家畜部門より(堀部、小林)

現在、母豚候補として新規に4頭のLW豚を導入しました。そのうち2頭に発情がみられ、種付けを行いました。来月までに妊娠（受精）しなければ、皆さんの来年の楽しみである「さなぶり」豚汁用大農ECO豚が間に合わなくなってしまいます。そうならないためにも、日頃の実習での飼育管理をよろしくお願いします。

現在肥育している6頭が今月出荷予定です。また豚舎内が賑やかになるのは年末の予定です。

## ◆小家畜部門より(田口健一、富樫)

気温が30℃を下回り、だいぶ涼しくなってきました。ニワトリたちは元気に卵を産んでくれています。販売の際にはぜひご購入ください。

## ◆作物部門より（高橋寿・佐々木周、黒田）

イネは田植えが1週間遅れ、6月24日の大雨により、冠水したことを除くと、生育は順調です。7月下旬から8月上旬にかけて出穂しました。と同時に、ヒエ、オモダカといった水田雑草も順調(?)で除草作業に追われています。このまま台風などの被害がなければよいのですが、、、



一番手前は農道の雑草ですが  
カメムシの住処として刈り取って  
いません。

手前は直まき試験栽培区  
奥が慣行栽培区です。